循環の永年変動と水文および気象の長期予報″（1971年，レニングラード，水文気象出版社）を参照されたい．

講演の概要は以上のようであるが，論文発表の翌日に各部門ごとに今回の論文に関連した討論と今後どのように研究を進めるべきか，さらにそれに関連した問題点についてのまとめを行なった．気象学的過程の部門は海洋物理的過程部門と合同で，Coachman 博士（ワシントン大学）が座長となり討論が行なわれた．気象学的過程の部門は，筆者と Girs 博が意見を述べたが，これまでの論文内容から今後研究を進める方向がかなり明確になっていると思われる．実は筆者は本務の都合で最終日のまとめの討論の日まで出席できなかったが，今回のシンポジウムに関連した今後の課題を参考までに次にあげておく．このベーリング海に関する研究は，今後も組織的に続けられる予定とも聞いているので，次回のシンポジウムには，さらに多くの研究者の参加を期待したい．

気象学的過程に関する研究課題

1. ベーリング海周辺における気象現象に関し，物理的観点からの究明（たとえば，オホーツク海高気圧の機構，海面もしくは氷面と大気の相互作用など）
2. 気象衛星による ベーリング海周辺の海氷資料の収集とその予報に関する研究
3. 総観および理論面からの ベーリング海周辺の熱収支と北半球の大循環および気候変動に関する研究
4. ベーリング海周辺の 詳細な地上気候に関する研究
5. ベーリング海周辺の対流圏と成層圏における大循環の相互作用に関する研究
6. ベーリング海の世界の気候制御への果す役割に関する研究
7. 北半球の大気環流型と ベーリング海周辺における気象や海象との関連性についての研究の推進

第16期第5回理事会議事録

日　時　昭和47年5月15日　15.00～18.30

場　所　気象庁観測部会議室

出席者　山本，大田，関口，関原，伊藤，駒林，北川，大井，小平，藤原，神山，川村各常任理事
孫野，中島，竹内，木村，須田，各理事
根本監事

列席者　中村，鈴木庶務委員

議　題

1. 総会準備について
   (1) 理事長あいさつ要綱（案）
   (2) 昭和46年度事業経過報告（案）
   (3) 昭和47年度事業計画（案）
   (4) 昭和46年度決算書（案）
   　　} 原案を承認
   (5) 昭和46年度会計監査報告

根本監事から次の報告があった．

会費未納者は，180人位で会費納入状況は他の学会なみであるが値上げの時でもあるので，未納者は極力少くすることが望ましい．

通信費は郵便料金の値上げにより当初予算に較べ65万円超過している．これは，1人当250円～300円となっており，会費値上げはやむを得ない．

帳簿，伝票の整理状況は良好で適法と認めた．

   (6) 昭和47年度予算（案）
   (7) 長期計画委員会経過報告（案）
   (8) 沖縄復帰に伴う案件成立後の理事長あいさつ要綱（案）
   (9) 総会提出議題
   　　} 原案を承認

   イ，会費値上げに伴う定款の一部改正
   ロ，沖縄復帰に伴う措置
   ハ，奨励金受領者選定規定の一部改正

については出席理事全員で確認し総会に諮ることを議決した．

委任状，書面参加者の数をそれぞれの議案を討論した後に発表する．

2. 委員会委員の変更について

天気編集委員久保木光熙（長期予報）の辞任，沖政進一，田崎允一（電計）の就任と，安藤隆夫（関東）の辞任とその後任に赤羽俊朗の就任を承認

3. その他
   (1) 文部省編「学術用語集気象学編」の出版権設定について
   委員会を設け検討する意志はあるが，予算，期間の関係もあるので更に文部省と打合せる．
   (2) 日本化学会から照会のあった「環境（公害）関係委員会活動の概況について」の回答
   回答原案を承認し気研ノート No. 107 を添えて回答する．

新入会員　塚本修外22名の入会を承認